

平成30年度 第2回周南市環境基本計画推進委員会 会議録

日時 平成30年12月25日(火)
午後1時30分から午後2時25分
場所 周南市役所シックプラットホーム棟
1階 多目的室

1 開会

出席委員 17名

事務局 4名

2 環境生活部長あいさつ

3 議事

- (1) 環境基本計画の見直しに係る各施策の検証について
- (2) 市民アンケート(小中学生、教員、事業者、市民団体)の結果について
- (3) 平成30年版環境報告書の作成について
- (4) その他

<凡例 長：委員長、委：委員、事：事務局>

(1) 環境基本計画の見直しに係る各施策の検証について

委：不法投棄について、不法投棄の現場に、警察と連携すると抑止力の向上につながるのでは。

事：これまで不法投棄禁止の看板は、警察と連名で出している。以前は事件性が無ければ協力してもらえなかったが、最近では、不法投棄の通報だけでも警察と一緒に現場を検証、調査するような協力体制はできている。

委：今回の資料は、後期の基本計画を策定するための資料と捉えているが、今後のスケジュールは。

事：7月におおまかなものはお示ししたが、今回、各担当課の事業の洗い出しを行った。来年4月頃から作業を行い、来年度は本委員会を3回開催し、その際に冊子のようにまとめたものをご覧いただき、来年度末に完成予定である。

委：既にある指標で見直しがあったものも、来年度、製本する前に担当課と協議し、来年度末に完成ということでしょうか。

事：その通りである。冊子のような状態で、各課にどういった表現が望ましいかを確認し、本委員会で案を示し、完成に近づけていく予定である。

委：2-2 効率的なゴミ処理システムの確立について、主な事業は一元化によるごみ処理コストの削減だが、指標が苦情の件数になっている。コスト削減と、苦情件数のつながりが分からない。苦情の件数が減るイコール不法投棄が少なくなるということだと思うが、コスト削減なら、それを指標としてはどうか。

事：合併前の処理施設や分別方法が一元化できていないのが現状であるため、リサイクル推進課が一元化を進めている。当初、そうすることによって、分かりやすく、シンプルに処理ができ、イコール安易な不法投棄が減ると考えていた。しかし、周南市環境管理庁内推進委員会で、ランニングコストを成果指標とすることが望ましいという意見があった。ランニングコストを設定してしまうと、人口減少や燃料費の変動などの不測要因で金額にすぐ反映できないということもあるため、コスト的な物が示せるのなら変更したい。現在は、不法投棄の苦情件数を掲げているが、担当課の意見も参考にして、変更する可能性も踏まえて検討を進めていく。

委：資料の指標は、各担当課が設定するものなのか。また、このような指標が入った方がいいのではないかという意見があった場合は、検討して掲載するしないを決定するのか。

事：担当課の意見を聞きながら、掲載について詰めていく。

(2) 市民アンケート（小中学生、教員、事業者、市民団体）の結果について

委：資料2の中に、5年前のアンケートの結果を載せているものと載せていないものがある。もし5年前の結果があるのなら、載せた方が比較しやすいのではないか。

事：今回は、中間見直しということで、基本的には5年前と同様のアンケートを行った。5年前のデータはあるので、基本計画を作成する際は、どちらも載せたいと思う。設問数が膨大であるため、この度の資料には、変化があるものについてのみ掲載した。

委：9ページの、市民団体の「人材の確保や育成が必要」について、もったもな意見であるが、実際には、少子高齢化が進んでいる。定年制が延長になり、リタイアされた方の年齢が上がっている。利己主義、個人主義により参加される方が減った。20年前と比べていろいろな団体の活動があり、パイの奪い合いになっている。そのため、「人材の確保や育成」は、言うは容易いが具体的には不可能に近いくらい難しい。それが現状であるので、

参考までに。

事：環境管理庁内推進委員会でも、高齢化が進み、いろいろな活動が増えているため、小さいころからの教育が大事という意見があった。環境政策課としても、学校に出向いて、いろいろな活動に関心を持ってもらえるように啓発を図りたいと考えている。

委：事業所の回収率が悪かった理由は掲載しているが、市民団体の回収率が悪かった理由は何か。また、市民団体というのは、どういった団体を対象にアンケートを行ったのか。アンケートの結果も、基本計画に反映されると思うが、5ページの「参加経験のある環境活動」と「参加したい環境活動」について、一緒にしているが、開催の頻度や、主催者が異なるため、一緒にするのは難しいのではないか。

事：市民団体は、市民活動支援センターの環境分野に登録されている団体に、分かる範囲で送付した。回収率が悪かった原因は、分かっていない。次に、「参加経験のある環境活動」と「参加したい環境活動」が同じ項目なので問題があるのではというご指摘だと思うが、基本的には5年前と同じ項目でアンケートを行った。ご意見のとおり、参加経験があって参加したいというのと、参加経験がないが参加したいというのを併記するのは難しい。参加経験がないが参加したいというのは、イメージを踏まえて回答していただいたと解釈している。

長：アンケートの対象は、小学校、中学校すべてが対象なのか。

事：小学5年生と、中学2年生が対象である。

長：小学生、中学生の回収率が良いのは学校を通じてアンケートを行ったからだと思うが、市民団体は、代表者1名に送付したのか。

事：市民団体は、把握している団体の住所に送り、自然体で帰ってきたものを集計した。1団体1通の回答である。

長：1団体1通の回答であることに意味があるのか。

事：団体としての考え方を回答していただいた。

(3) 平成30年版環境報告書の作成について

委：34ページの外来生物の防除対策の推進について、アズラという植物が、どういったものか分からない。写真を掲載してはどうか。

事：現在、除去作業中の写真を掲載しているが、担当課に確認し、アズラの写真を掲載する予定である。

委：35ページの森林面積の林野面積、人工林、天然林の合計欄が右側の方が見やすいのではないか。

事：合計欄を右側に修正する。

委：41ページの動物ふれあいプログラムについて、開催場所の記載がない。

事：題目を徳山動物園の動物ふれあいプログラムに修正する。

委：43ページの周南市歴史博士検定について、平成29年度の受験者数、合計者数の記載があるが、過去5年間分も掲載してはどうか。

事：5年間分の受験者、合格者数を掲載する。

委：毎年報告書実施している事業は、数字の変動があるものについては、複数年の掲載をお願いしたい。見やすさについても、小数点以下の桁数をそろえるなど、精査してほしい。

事：承知した。

委：表紙に平成30年版と記載があるが、今年度中に作成し、年度末に製本するスケジュールでよいか。また、最終ページのアンケートについて、出したい人が出すものであろうが、回答は次年度以降の報告書に反映されるということか。可能であれば質問があった場合には、個人に回答するのではなく、市のホームページで回答する方法や、パブリックコメントで意見をもらって回答するのはどうか。

事：環境報告書は、市民配付用の作成と、ホームページ上にも同じものを掲載予定である。いろいろな意見を反映し、より良いものにしていくため、多くの市民から意見をいただくという意味でアンケートをつけている。本報告書は、環境基本計画を推進した結果の報告書であるため、パブリックコメントの実施は考えていない。平成30年版にしている理由は、年度版という表記にすると、前年度の結果が載っていると誤解を受ける可能性があるためである。また、発行時には、県の環境白書のデータは2年前の結果が掲載されるため、何年に作成したものであるという意図で、平成30年版という表記にしている。

(4) その他

質疑なし

4 閉会